

## ① 遊び心のある住民主役のまちづくりについて

住民が主役の町は、地域社会が協力しともに発展していく文化が根付いた町ではないかを感じる。コミュニケーションが活発、かつ全体が一体感を持ち積極的に参加することで住民同士が親睦を深め地域全体の活力に繋がるものと考えている。

そこに「遊び心」を取り入れることで、地域の見守りや子育て世帯への地域間での支援、高齢者への支援への参画、また、若者が住み続けるために必要な条件を備えた魅力的な町になるのではと期待も大きい。その場合、行政の役割や関わりが重要になってくるのではと思われる。行政は、住民福祉を向上させることが求められるが、そのためには、住民ニーズや課題を正確に把握し、それに基づいて包括的な計画の策定や予算配分をするという責務がある。そこに住民の意見を取り入れることで効果的で持続可能な解決策が生まれる可能性があると考えている。

現況において、住民の声を質問に変え具体的に以下の質問をする。

- (1) 本町にとって、現在、最大のプロジェクトである「新図書館建設」は議会においても特別委員会を設置し協議をしているが、今後、住民の声をどのように取り入れていくのか。
- (2) 潮井崎キャンプ場は、町内外から観光客が自然に親しみ、野外活動やレクリエーションを通じ健康および福祉の増進、また交流人口の拡大に寄与する施設として管理を行う必要性から使用料を徴収しているが、1年が経過し住民の意向に沿った施設になっているのか。
- (3) 長与町公共施設等総合管理計画によると老人福祉センター「丸田荘」は2000年に建設され、比較的新しいことから現状のままになっている。これまでもボイラー等の大規模修理を行った経緯もあるが、今後、修理の必要に迫られた際の存続をどう考えているのか。
- (4) コロナ禍において、公共施設の利用制限が設けられるなど住民が自由に利用できない時期が続いた。新型コロナ感染症が「5類」に移行したが、現在はどうか。また、公民館利用時の飲食はどうか。
- (5) 9月議会で「福祉バス」の存続について質問したが、住民の意見は「ないと困る」という声を多く聞くことになった。その意向を聞き、今後、福祉バスを利用し活動をしてきた自治会やコミュニティ、老人会やサロン、子ども会や学校においての野外活動などへの対応は考えていく必要があると思う。どのように進めていくのか。
- (6) 住民を巻き込み、史跡や文化遺産の維持管理やイベントの企画に参加してもらうことで地域コミュニティの結束強化、郷土愛の醸成に寄与するのではと思う。また、これにより、地域資源を大切に、その魅力を最大限に引き出すことで遊び心のあるまちづくりが実現するのではと考えるがどうか。
- (7) 住民の協力なしでは、どのようなまちづくりも滞ってしまう。様々な場面で携わる職員などの対応は適切か。